

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 横代 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

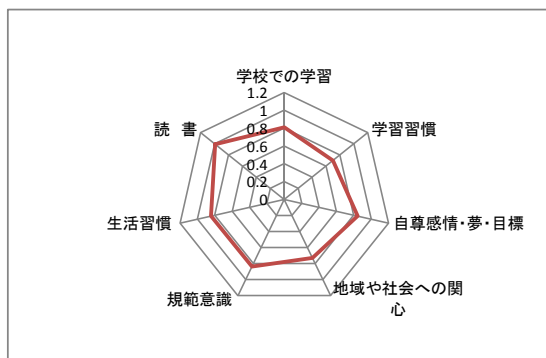
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っていたが、言語についての知識・理解などの基本的な内容の定着が図られていた。 ・書く力を問う問題に課題が見られる。書くことを習慣化し、自分の考えを表現する活動を一層充実させる必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「漢字を正しく読む」問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	「漢字を正しく書く」問題の誤答率、無解答率が高かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均をやや下回っていたが、各領域ともに確実な力が付いてきている。 ・文章の内容について、根拠を明確にして、自分の考えを書く問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える問題は、無解答率が低かった。	
	努力が必要な問題	物語を読み、叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめる問題は正答率が低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均を下回っており、特に「量と測定」領域に課題が見られる。 ・算数の計算についての力が不足しており、基礎的な計算力をつける必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	加法と乗法の混合した整数と小数の計算ををする問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	商を分数で表す問題は、正答率が低く、無解答率も高かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、特に「図形」領域に課題が見られる。 ・記述式の問題形式の正答率が低く、無回答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	示された条件を基に、適切な式を立てる問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述問題は、正答率が低く、無回答率も高かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のはじめに「めあて」が示され、授業の最後に「振り返り」の活動があるという学習過程のスタンダード化を進めてきたが、全国平均をやや下回っている。</li> <li>・家で宿題に取り組む児童の割合が全国平均をやや下回るとともに、1時間以上家庭学習をしている児童の割合も、全国平均を下回っている。</li> <li>・「普段(月～金曜日)、1日当たりのゲームをする時間が60分未満」と答えた児童の割合が、全国平均を下回っている。</li> <li>・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合が、全国平均を下回っている。</li> <li>・「音読・読書」の取組や「読書のすすめ」の取組の結果、「読書が好き」と回答した児童の割合が増えている。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎学習規律の徹底を図る。
  - ・チャイム席(時間を守ること)に重点的に取り組む。
- ◎授業の充実を図る。
  - ・一単位時間の中に「めあて」「まとめ」「振り返り」のある学習課程に引き続き取り組む。特に「振り返り」の内容の充実を図る。
  - ・一単位時間の中に「話し合う活動を設定し、自己表現力(コミュニケーション能力)を高める。
  - ・デジタル教科書などのICTの活用を図り、視覚に訴える授業を展開する。
  - ・国語や算数では、授業のはじめなどに音声計算やフラッシュカードなどに取り組む。繰り返し取り組むことにより基礎基本の定着を図る。
  - ・スモールステップでの指導を大切し、その指導過程で児童を認め・励ましながら達成感をもたせることにより、児童の自己肯定感を高める。
- ◎学力向上のための朝自習の内容の充実を図る。
  - ・全校で一斉に学力向上タイムに取り組む。【8:35~8:45の10分間】  
月曜日(音読)、火曜日(算数)、水曜日(国語)、木曜日(読書・読み聞かせ)、金曜日(算数)

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎基本的な生活習慣の定着
  - ・「早寝、早起き、朝ごはん」を給食だよりや保健だよりで保護者に啓発する。
  - ・「あいさつ運動」に全校で取り組む。
  - ・懇談会など、機会を捉えて保護者に啓発する。
- ◎家庭学習のスタンダード化
  - ・基本的に毎日宿題を出す。(基礎的・基本的内容の定着、学習習慣の確立のために)
  - ・低学年・20分、中学年・40分、高学年・60分を目安に家庭学習に取り組む。
- ◎保護者への啓発
  - ・学校HPや学校通信などで全国学力・学習状況調査の課題と課題解決に向けての取組を、保護者や地域に周知する。